

## 2023年の世界経済の成長率見通しを上方修正

～向こう2年の成長率は、先進国での減速を背景に、3.0%にとどまる見通し～

## 2023年の見通しは0.2ポイントの上方修正

IMF(国際通貨基金)は7月25日に最新の世界経済見通しを発表し、2023年の世界のGDP成長率について、同年1-3月期の先進国でのサービス消費の堅調を主因として、今年4月時点の見通しから0.2ポイント上方修正しました。ただし、先進国を中心とした景気鈍化を想定し、向こう2年の世界の成長率はいずれも3.0%と、2000年～2019年の平均の3.8%や、2022年の3.5%を下回ると見込んでいます。なお、新興国については、全体としては安定成長が見込まれているものの、地域によって状況はマチマチとされています。

## 世界経済は2023年1-3月期に底堅く推移

2023年の見通しのうち、先進国では、消費の伸びが堅調だった米国や、サービスと観光が堅調だった、イタリアおよびスペインが上方修正された一方、製造業が低迷したドイツは下方修正されました。日本の場合は、コロナ禍で抑えられていた需要の持ち直しを背景に、上方修正されました。

新興国では、インドが投資拡大、ロシアが大規模景気対策、ブラジルが農業生産の増加とサービス業への波及効果、メキシコがサービス業の回復や底堅い米国の需要などから、上方修正されました。

## IMFの世界経済見通し(実質GDP成長率)

<白背景部分は2023年4月時点の予測との比較(%ポイント)>

|            | 2021年 | 22年   | 23年予測 | 24年予測 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 世界         | 6.3%  | 3.5%  | 3.0%  | 0.2   |
| 先進国        | 5.4%  | 2.7%  | 1.5%  | 0.2   |
| 米国         | 5.9%  | 2.1%  | 1.8%  | 0.2   |
| ユーロ圏       | 5.3%  | 3.5%  | 0.9%  | 0.1   |
| ドイツ        | 2.6%  | 1.8%  | ▲0.3% | -0.2  |
| 日本         | 2.2%  | 1.0%  | 1.4%  | 0.1   |
| 英国         | 7.6%  | 4.1%  | 0.4%  | 0.7   |
| 新興国        | 6.8%  | 4.0%  | 4.0%  | 0.1   |
| アジア        | 7.5%  | 4.5%  | 5.3%  | 0.0   |
| 中国         | 8.4%  | 3.0%  | 5.2%  | 0.0   |
| インド*       | 9.1%  | 7.2%  | 6.1%  | 0.2   |
| 中・東欧       | 7.3%  | 0.8%  | 1.8%  | 0.6   |
| ロシア        | 5.6%  | ▲2.1% | 1.5%  | 0.8   |
| 中南米ほか      | 7.0%  | 3.9%  | 1.9%  | 0.3   |
| ブラジル       | 5.0%  | 2.9%  | 2.1%  | 1.2   |
| メキシコ       | 4.7%  | 3.0%  | 2.6%  | 0.8   |
| 中東・北アフリカ   | 4.0%  | 5.4%  | 2.6%  | -0.5  |
| サハラ以南のアフリカ | 4.7%  | 3.9%  | 3.5%  | -0.1  |
| 南アフリカ      | 4.7%  | 1.9%  | 0.3%  | 0.2   |

\*年度ベース(上記各年の4月から翌年3月まで)

(出所:IMF「World Economic Outlook Update, July 2023」)

●上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

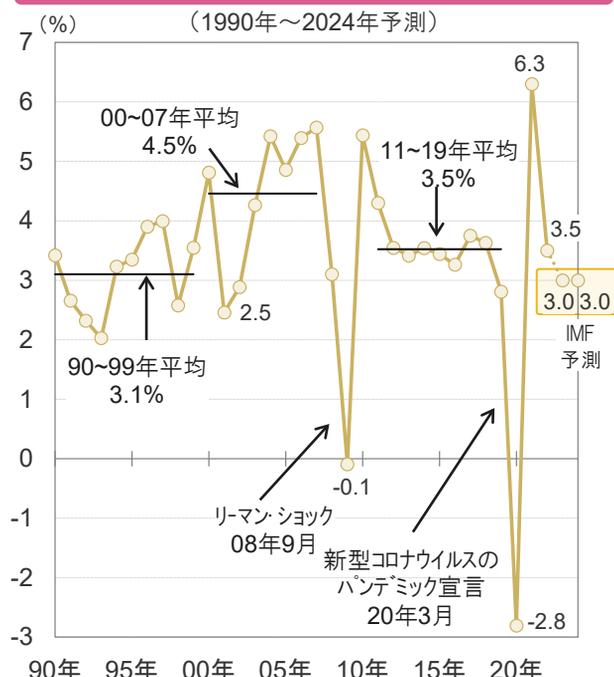
なお、WHO(世界保健機関)が新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を今年5月に解除したほか、サプライチェーン(供給網)についても、コロナ禍前の状況にほぼ戻ったとされています。しかし、金融引き締めなどの影響により、先進国の製造業を中心に、経済活動が勢いを失いつつある兆しが強まっています。また、世界のインフレは2024年にかけて鈍化する見通ししながら、全体として、物価目標がある国の内、2023年は96%で、2024年は89%で、インフレ率が目標を上回ったまま推移すると見込まれています。

## インフレ長期化や中国の回復減速がリスク要因

中国については、不動産不況の影響で予想を下回った投資を、予想以上に好調だった純輸出が一部補ったとして、今回、見通しに変更はありませんでした。しかし、世界経済の減速が予想される中、純輸出の寄与度は今後、低下する可能性があります。IMFは、世界経済見通しの下振れ要因として、高インフレや金融引き締めの長期化、新興国の債務問題、地政学や気象面でのショックなどに加え、中国の景気回復の減速を挙げています。

また、IMFのチーフエコノミストは、世界経済の5年後の成長率について、3%付近かそれをやや上回る程度にとどまるとの見解を示しています。

## 世界の実質GDP成長率の推移



(IMFのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)